

【学校教育目標】	【本年度の重点目標】
グローバル碓井！ ～確かな学力、自主・自律・共生の精神を身につけた児童生徒の育成～	○学力下位層のスキルと非認知能力の向上 ○快い挨拶や行いに対する志向・行動化

領域	項目	自 己 評 価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
学校経営及び学校組織	校内組織運営の充実	1-1 本年度の重点目標を意識して取り組みを行っている。 〈結果〉AB評価:87% 定期的に実施する評価活動の内容を本年度の重点目標に整合させて実施してきた。	3.0	○教育目標達成のために日々先生方は頑張っていると思います。 □取組を焦点化し、確実な実行により成果を喜びあえる協働体制づくりを継続する。
		1-2 校務分掌で担当する具体策を実行できた。 〈結果〉AB評価:87% 年度当初に係の年間計画を立て、それに基づき実行してきた。	3.1	○先生方のチームワークの良さが見られます。先生方は子どもたちのことを良い事も、悪いこともよく把握されていると思います。 ○十分に組織的な取組ができていますと思います。 □部や係の担当者がそれぞれの組織における取組のねらいを共有し、具体策のさらなる具体化、役割の明確化を推進する。
		1-3 CAP-Dサイクルにより、取組を振り返り改善につなげた。 〈結果〉AB評価:55% 月に1回の校務分掌部会において、取組等の評価・改善をしてきた。	2.5	○小中が一緒になったばかりなので、スムーズに取組が行われるまでには、2～3年かかるかもしれませんが、1日でも早くまとまった運営がなされるように全体で頑張っていたきたいと思います。 □校務分掌の組織を改善し、より機能化させる。教育指導計画書の計画を改善しながら実施していく。
		1-4 学年部会、学年会での話し合いは充実している。 〈結果〉AB評価:91% 週に一度、学年部会・同学年会を設定してきたことで、情報や成果、課題の共有が図られてきた。	3.4	○今後も組織的な取組を推進してほしいです。 ○全職員で情報を共有し、組織的に取り組むことが大切だと思います。 □子どもを中心に据えた取組について話し合ったり、振り返ったりすることが日常的にできている。取組を継続していく。
		1-5 いじめ問題には、組織的に対応できている。 〈結果〉AB評価:87% いじめ問題には特に気を配り、指導の徹底を図ってきた。いじめ問題対策委員会を核として、日常的に情報共有し、組織的に対応してきた。	3.3	○これから子どもたち一人一人にきめ細やかな指導をお願いしたいです。 □いじめ問題に対する教職員の対応能力を高めるために職員研修等を充実させる。 □学校としての指導方針や対応策を確立し、報告・連絡・相談のシステムを徹底していく。
		総合所見	教職員一人一人が自己の責任を果たしながら協働して学校の教育目標の達成に向かう気持ちを醸成する。 部・係の推進については、課題が残った。来年度は、校務分掌組織を改善するとともに、PDCAサイクルを通して絶えず取組の改が図れるようマネジメントをしていく。	
学力の向上	学習活動づくり	2-1 基礎基本の徹底を図るため、形成的評価を生かして取り組んだ。 〈結果〉AB評価:77% 学力向上コーディネーターと指導方法工夫改善教員が連携し、一人も取り残さないことを目指して取組を進めることができた。	3.0	○子どもたちに基礎基本の学力の定着をこれからもお願いしたいです。 □これまでの実践を土台とし、誰一人取り残さない取組を継続する。
		2-2 わかる授業づくりのため、分割授業やTT授業の効果的な実施に努めた。 〈結果〉AB評価:73% 習熟度に応じた分割授業を実施し、学力低位層の底上げを図った。	2.8	○学力向上のために常に研究・研修されている先生方に感謝します。子どもたちの読み、書き、計算の力がついたという声を保護者から聞きます。子どもたちの様子やテストの結果からいろんなところで先生方は工夫しているのではないかと思います。 □共通実践が進み、成果が得られた。学力層に応じた個別最適な学習・支援の構築に向け、実践を継続する。 □より効果的な取組になるように指導方法工夫改善等の活用方法を検討する。
		2-3 考える授業づくりのため、書いたり交流したりする場を多く設定した。 〈結果〉AB評価:64% 学校全体で、グランドデザインを活用した「問づくり・思考づくり・価値づくり」の授業を展開してきた。	2.8	○6年生以上の学年は高いプレゼン能力が身についていると思うので、その部分を強化していくと卒業後の進路先でも能力を発揮できると思います。 □協働的な学びの姿を校内で共有し進めることができた。日常化するように推進する。 □「書く活動ポイント9」の積極的な活用を推進する。
		2-4 家庭学習の習慣化に向けた取組を継続した。 〈結果〉AB評価:91% 「家庭学習強化週間」や「家庭読書」の取組を実施した。また、個人の課題に応じた内容と量にできるよう配慮してきた。	3.1	○保護者も自宅で読書を行うなどの姿を子どもに見せると良いと思います。保護者向けの本を紹介、又は貸し出しを行ってもよいのでは。 □それぞれの課題に向き合うことができるような家庭学習になるよう、工夫していく。(キュビナの効果的な活用) □固定化している宿題をしてこない子に対する働きかけを工夫する。
		2-5 地域の「ひと・もの・こと」を授業で活用した。 〈結果〉AB評価:62% 積極的にGTを呼んだり地域に出かけたりすることができた。	2.8	○今年の5年生も「米作り」を頑張りました。 □地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用し、ふるさと学習のカリキュラムを実践していく。
	総合所見	指導方法工夫改善教員を少人数指導やTT授業で効果的に活用したことで、CD層の児童生徒の理解の促進と、自尊感情や意欲の高まりが見られた。 児童生徒の実態、データをもとにした取組を構築し、取組の徹底・浸透を図る。		

人間関係力の育成	人間関係づくり	3-1 気持ちの良い挨拶ができるように指導した。 〈結果〉AB評価:96% 児童会と生徒会が中心となり強化週間等を設定して取り組むことができた。	3.3	○碓井の児童生徒は、いつも元気な挨拶をしてくれます。 ○児童会と生徒会が積極的に活動していることでとても良い影響を与えていると感じます。 ○あいさつ運動を続けてほしいです。保護者からも子どもが挨拶するようになったという声を聞きます。	☐ 挨拶を交わすことが特別な事でなく、常態化できるような取組の工夫をしていく。 ☐ 児童会・生徒会が一体となって取組を進める。
		3-2 人とつながる言葉や行動をとれるように指導した。 〈結果〉AB評価:100% 義務教育学校のよさを生かし、異学年交流を積極的に行った。	3.3	○子どもたち一人ひとり優しい行いを見ることが出来ます。 ○道德授業がしっかり行えているので良い結果になっていると思います。	☐ 教師側のねらいと児童会・生徒会の活動をマッチさせた取組を継続していく。 ☐ 異学年交流を推進する。
		3-3 ルールやマナーの大切さを考えさせ、守れるように指導した。 〈結果〉AB評価:96% 小さな問題を見逃さずに対応するよう心掛けてきた。同学年や近接学年での情報共有と綿密な対応に努めた。	3.5	○子どもたちの意見を尊重しつつ、学校全体として取り組むことができた、何事も早い段階で対応できると思います。 ○保護者のルールとマナーもよくなっていると思います。高学年の児童の皆さんが良いお手本、模範になっているのが良く分かります。	☐ 複数の目で子どもの様子を気につけ、少しのことでも情報共有できるような教師集団をめざすよう継続する。 ☐ 児童生徒の主体性を重視した取組を進める。
		3-4 人権教育推進の視点を意識し、自分も人も大切にするように指導した。 〈結果〉AB評価:96% 学級経営において人権尊重精神の涵養を意識的に取り組んでいる。また、定期的に人権学習を実施した。	3.4	○子どもたちの様子を把握し、特に気になる子どもなどを見守るような体制作りをしてほしいです。	☐ 人権学習や日常的な人権教育を継続する。 ☐ 人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を一体となって進める。
		3-5 善悪が判断できるよう、良いことは誉め悪いことは毅然と指導した。 〈結果〉AB評価:96% 誉めることに努めてきた。子どもたち同士での認め合いも意識して取り組ませてきた。	3.4	○小中が一緒になったことにより学年に関係なく子どもたちの様子や色々な角度から見ていただいていると思う。 ○近年は、子どもたちを注意することが少なくなりました。学校の指導に感謝しています。	☐ 教師側のねらいを明確にし、誉める・認めるを適切に行うように継続する。 ☐ 全職員が同じ基準で指導できるように情報を共有する。
		総合所見	いろいろな形の異学年交流を実施することで、上級生へのあこがれや下級生への思いやりなど、精神的な成長につながった。来年度以降、より交流が進むように積極的に推進していく。 数年後、児童会と生徒会が一つの組織となることを見据え、児童会と生徒会が一体となった取組を推進していく。 SNSのトラブルを喫緊の課題ととらえ、全学年で計画的に情報モラル学習ができた。		
不登校の解消	環境づくり	4-1 学級が安心・安全な居場所となるように学級経営を行った。 〈結果〉AB評価:84% 1人1人が教室で自己存在感を味わうことができるように取り組んでいる。発達段階に応じて、学級での取組を進めている。	3.3	○落ち着いた学校、学級づくりは、凡事徹底が大切だと思います。	☐ 人権教育の視点を意識して、自己存在感や自尊感情を高める取組を継続する。
		4-2 理由が不明な遅刻や早退について、適宜、指導・支援した。 〈結果〉AB評価:85% 毎朝、遅刻や欠席者を職員室のホワイトボードに書き込んで共有している。連絡がとれないときは家庭訪問をして安否確認を行っている。	3.2	○先生方がいろいろと気配りされていると思いますが、遅刻の多い子が気になります。 ○忙しい中、欠席の連絡がとれないときは家庭訪問されている先生方に感謝です。	☐ 「福岡アクション3」の徹底を図る。 ☐ 毎日、欠席や遅刻の理由を聞き取り、対応していくことを継続する。ケースによっては、福祉側からのアプローチも必要であるので、関係機関との連携も図っていく。
		4-3 問題の早期発見のため、子どもの言動を気につけ、話をよく聞いた。 〈結果〉AB評価:91% 朝の健康観察の時から一人一人の様子を観察し、担任だけでなく多くの目でSOSを見逃さないよう努めた。	3.1	○大変ですが、今後もよろしくお願いします。 ○毎朝、登校の様子を見守ってくださる地域の方からの意見を定期的に拾う機会をもつとよいと思います。地域とよりよい関係性を保つことができます。	☐ 全職員の情報共有を密に行う。
		4-4 気になる事は、保護者と話したり関係機関につないだりした。 〈結果〉AB評価:90% 担任は保護者と日常的に連絡をとっている。気になる事は同学年や担当の係、管理職、関係機関を含めて組織的に対応している。	3.2	○今後も保護者と連携を図って素早い対応をお願いします。	☐ 日常的に学年部会や同学年会のメンバー同士で情報交換を行い、その中で課題の共有や対応策等を協議していく。 ☐ 場合によっては、
		4-5 出欠の状況を把握し、学年で話したり対策委員会に提起したりした。 〈結果〉AB評価:95% 適宜、マンツーマン会議を実施した。また、関係機関等とも情報を共有しながら対応策等を検討している。	3.3	○地域の方も協力してくださると思います。	☐ 役割分担を明確にし、取組を継続する。 ☐ 児童生徒の実態に応じた支援を行うため、関係機関やSC、SSWと連携するなど、不登校の改善・解消に向けた対応の工夫を図る。
		総合所見	学校、保護者、地域、関係機関との連携を強化し、誰一人取り残さない教育活動の展開を充実させていく必要がある。 児童生徒が安心して学校生活が送れるように、積極的な生徒指導を展開していく必要がある。 不登校対策委員会で組織的な対応を確認するとともに、早期発見・早期対応に向けて確実に報告・連絡・相談を徹底させていく。		